

東京2020オリンピック競技大会 聖火リレートーチ展示!!

白石美帆さんの聖火リレートーチ展示

常陸大宮大使の白石美帆さんが東京2020オリンピック競技大会の聖火リレーのランナーとして使用したトーチとユニフォームを市役所1階のロビーに展示しています。白石美帆さんから市民の皆さまに、ぜひご覧いただきたいとコメントをいただきました。

市役所開庁時間内に自由にご覧いただけます。(展示期間は2月末までを予定)

白石美帆さんからのコメント



常陸大宮市のみなさまへ

コロナ禍の昨今まだまだ予断は許しませんが、今年の東京オリンピックのあの夏、アスリートの方々の躍動・熱気・感動を少しでも呼び起こせることができたらと想い、今回このような機会をいただきました。市役所内にてトーチと私が聖火ランナーで着用した衣装を展示させていただきますが、次のオリンピックまでには世界中が平穏に包まれていますようにと、心より願っています。

どうか、みなさまもお元気でいてくださいね。

白石美帆

聖火リレートーチの学校巡回展示

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会が開催されたことを記念するとともに、市内の児童生徒に対し、オリンピック・パラリンピックの意義や価値について理解を深めることを目的に、オリンピック・パラリンピック聖火リレーのトーチを、市内全ての小・中学校を対象に巡回展示しています。



▲村田小展示の様子

ホストタウン交流会＝ペリリュー・スタディープログラム2021＝

12月19日(日)に、常陸大宮ショッピングセンターピサロにおいて、常陸大宮市ホストタウン交流会「ペリリュー・スタディープログラム2021」を開催しました。このプログラムは、パラオの中でも特に本市と関わりの深い「ペリリュー島」に焦点をあて、歴史的なつながりを学び、平和と友好交流について考えるきっかけとなるように企画したものです。

まず、生還者の証言をもとに、日本兵の視点から戦争の悲惨さを描いた漫画「ペリリュー・楽園のゲルニカ」の原作者武田一義先生のご協力を得て、高校生パラオブルーサポーター(小瀬高校と水戸啓明高校の生徒が参加)とのオンライン対談を行いました。

参加した高校生からは「戦争とは」「平和とは」を考えるきっかけとなり、貴重な経験ができたとの感想がありました。また、ペリリュー島に今も残る当時の戦車や大砲、日本軍が陣営とした洞窟や戦没者の慰霊碑などを、現地ガイドがリアルタイムで案内するオンラインスタディーツアーを実施しました。

本市は今後も、パラオ共和国との国際交流を継続的に推進していきます。



▲オンライン対談



▲オンラインスタディーツアー